

山行名	米子大瀑布・松川渓谷紅葉ハイキング [米子大瀑布 1480m/長野県]					
実施日	令和5年10月23日(月)~24日(火) 1泊2日 10人乗ハイエース利用					
天候/参加人員	天候:10/23 晴れ/10/24 晴れ、レベル:★ 参加者:シニアメンバー:9名(男3名/女6名)					
パーティスタッフ	省略					
参加メンバー	省略					
費用	35,800円(交通費¥15,627+宿泊費¥19,094+その他¥1,059+カンパ金¥20) (a)交通費: 10人乗ハイエースレンタル料(@21,450x2日)¥42,900、燃料代(レギュラーガソリン@170x(700km/5km))¥23,800、普通車高速道料金(往路:圏央厚木⇒須坂:¥6,330、帰路:小布施⇒圏央厚木¥6,460)¥12,790、ドライブ謝礼(@20000x2+宿泊加算2000)¥42,000、駐車料金(米子大瀑布)¥500、ドライブ宿泊費¥18,650/交通費合計¥140,640/9人⇒一人当たり¥@15,627、 (b)宿泊代 (高山温泉郷山田温泉「風景館」10畳和室3室/贅沢コース/早割&会員割)[@19,650x4人⇒¥78,600+@18,650x5人⇒¥93,250]宿泊代合計¥171,850/9人⇒1人当たり@19,094 (c)その他費用: 飲物代(地元産ワインボトル赤・白:各1本、ソフトドリンク3杯)¥8,030、通信費¥1,500/その他費用合計¥9,530/9人⇒一人当たり@1,059 費用合計((a)+(b)+(c)) ¥322,020/9人⇒一人当たり費用@35,780 集金¥322,200(@35,800x9人) - 総費用((a)+(b)+(c))¥322,020⇒残金¥180(カンパ金)					
一人当たり:	35,800円					
カンパ金:180円						
	10/23(月)米子大瀑布			10/24(火)松川渓谷		
所要時間	歩行	休憩	行動	歩行	含車移動	行動
ガイドブック	2:00	—	—	—	—	—
計画(行動時間)	~1:30	~1:45	~3:15	~1:20	~0:30	~1:50
実行(行動時間)	1:50	1:03	2:53	1:13	4:08	5:21
	歩行数: 10/23:~11,500歩 10/24:~10,000歩					
コースタイム						
◆10/23(月) 天候:終日晴 (厚木~須坂長野東IC~米子大瀑布駐車場~米子大瀑布周遊~駐車場~山田温泉泊) 1人 3人 1人 4人 圏央道/関越道/上信越道 始発鷲尾=(荻野新宿・林)=本厚木旧ヨカ前==圏央厚木IC==狭山PA==藤岡JCT==横川SA==松代PA== 6:00 6:20 6:39 7:23-7:35 8:24 8:55-9:11 10:15:10:25 (駐車場空待ち停車32分)(駐車料金¥500)35分 6分 3分 6分 21分(昼食) ==須坂・長野東IC==米子林道入口Y字路==米子大瀑布P====米子不動尊奥宮-不動滝---権現滝---不動尊---鉢山跡広場--- 10:35 10:53-11:25 11:54-12:05 12:40-12:47 12:53-12:59 13:02-13:08 13:14 13:35-14:15 7分(標高1480m)32分 ---あずま屋展望台---米子大瀑布P==山田温泉「風景館」(泊) 夕食18:00~20:00/就寝20:30~ 14:22-14:26 14:58-15:04 15:57到着						
◆10/24(火) 天候:終日晴(夢の道遊歩道~八滝・雷滝~七味温泉~文の蔵~高山共撰所~小布施オアシス~厚木) 朝食7:45~ (夢の道散策49分) (トイレ) (八滝遠望) 風景館==高井橋露地門---中門・松楓庵・吊橋---風景館==八滝展望台==雷滝P--雷滝---雷滝P==七味温泉== : 8:47 8:53 9:36-9:50 9:55-10:06 10:10 10:15-10:27 10:33 10:40-10:48 (昼食:玄そば40分待ち) (リンゴ購入) (リンゴ・フトウ・ミヤゲ購入) 上信越道/関越道/圏央道 高井橋下流==子安温泉文の蔵==JRながの高山共撰所==小布施オアシス&スマートIC==横川SA==高坂SA==圏央厚木IC 11:03-11:18 11:25-12:48 12:48-13:14 13:33-14:08 15:28-15:45 16:58-17:12 18:31 ==本厚木駅前・旧ヨカ前==(林・荻野新宿)=鷲尾(終点) 【参考情報:レギュラーガソリン価格】 ①厚木市内セルフGS:@158/②長野県高山村JAながの直営有人GS:@187/高速道有人GS:@198 18:49 18:53 19:15頃						
コースの概要、特記事項、反省事項等						(2/5)
◆計画立案まで: 2016年のNHK大河ドラマ「真田丸」のタイトルバックに使用された壮大な景観が、かつて真田幸村の領地であった四阿山北側の火口カルデラの大岩壁から流れ落ちる双流の滝で、日本百名瀑・国の名勝指定の「米子大瀑布」の景観であることを知り、是非行ってみたいと思っていた。ところが、2019年9月の台風で、林道の一部が崩落し、その後も地滑りが収まらず、ようやく3年半後の2023年5月23日に開通することになった。しかし、道幅が狭い上、駐車場も狭い(約50台)ため、普段は3ナンバー以下の自動車のみアクセス可で、ハイシーズンの週末は14km手前の「湯つ蔵んど」から、地元須坂市が運行する10人乗ワゴン車に乗り換えての入山のみ可とする規制がなされている。 開通直後の5/下に、早速下見に出かけた。東~南~西の3方を高さ200m級の溶岩岩壁に囲まれ、 (2/3)						

新緑とレンゲツツジの花に彩られた垂直の岩壁上の窪みから、一気に流れ落ちる双流の滝；右に根子岳(2207m)を源とする落差 89m の不動滝、左に百名山四阿山(2354m)を源とする落差 83m の権現滝のダイナミックな景観に息を呑んだ。

そこで、紅葉の名所として有名なこの地を今年の紅葉ベストシーズンの平日 10/23(月)～10/24(火)に、3 ナンバの 10 人乗ワゴン車を利用したゆった～り山行として、1泊 2日行程で訪れることとし、宿は近くの高山温泉郷にとり、翌日は、信州の紅葉の名所「松川渓谷」を探訪するプランを作成し、手を挙げた 9 名のシニアメンバーで実施することにした。

◆10/23(月)：秋晴れの中、ハンドルを握るドライバーと 9 名のシニアメンバーは、早朝厚木市を出発。途中 PA と SA の 3 か所で休憩を取りながら、圏央道/関越道/上信越道を順調に走り、出発から約 4 時間余を要して、須坂・長野東 IC で一般道に出て、約 16km 先の米子大瀑布駐車場に向かった。駐車場まで、約 12km の林道入口 Y 字路分岐で、地元交通整理係にストップするよう指示された。50 台収容の駐車場は、今朝 8 時過ぎには、満車になり、現在この先に 10 台ほど駐車場待ちの車が待機中だという。駐車場に空きができて、案内できるのは午後になると思うので、あきらめて帰って頂くか、約 2km 戻ったところにあるシャトル車の発着所の「湯つ蔵んど」で待機してほしいとの要請を受けた。この場所で待機中の車は我々の車が 6 台目、そうしているうちに、次から次へと車がやってきた。現在の時刻は 10:53AM。8:00AM に歩き始めた登山者は、おおよそ 2.5 時間で駐車場に戻り、車でここまで林道を走って戻ってくるのに 30 分を要することを考慮すれば、11AM を過ぎれば、車がどんどん戻ってくると踏んで、この場所で駐車場が空くまで頑張ることで、メンバー全員の意見が一致。予想どおり、32 分待った 11:25AM に Go サインが出て、計画より 24 分遅れの 11:54AM に駐車場に到着できた。5 シーズンぶりに解禁になった紅葉シーズンの米子大瀑布。10 月中旬まで続いた残暑で、紅葉の見頃が全国的に 1～2 週間遅れていたが、この週末の寒波で一気に紅葉が進み、やっと見頃を迎えようだ。この日、地元の方を中心に、紅葉狩りに多くの方が押し寄せて、駐車場がオーバーフローしてしまったのだろう。駐車している車のナンバープレートを見ると、長野ナンバーが圧倒的に多かった。

黄色を中心にした紅葉に彩られた樹林帯の中を米子川の渓流に沿った登山道を 30 分ほど登ってゆくと、右上高さ約 150m の岩壁上から一気に流れ落ちる不動滝に出会った。仮橋を渡り、標高差約 50m の急坂を登りきると、不動尊奥宮に到着する。米子不動尊里宮は、駐車場空き待ちをした Y 字路を東に進んだ場所にあり、日本三大不動尊の一つに数えられる由緒ある不動尊だという。不動尊奥宮の周りには、古くからの山岳信仰の名残の石像や石碑が散在しており、奥宮の対面の崖際には、根子岳山荘の建物がある。コヒヤや軽食提供の喫茶を営業中で、見晴らしの良いベランダに多くの客の姿があった。山荘の女性の話では、アクセス道路の不通が長らく続き、その間休業していたが、今秋から喫茶部門の営業を再開し、宿泊客の受け入れは、来シーズンから再開予定とのことだった。

不動堂の裏手の急坂を 6 分ほど登ると、不動滝の落口間近に達する。真下近くから落差 89m の不動滝を見上げると迫力満点だ。惜しむらくは、雪解け期や大雨直後以外は、水量が少なく、89m を落下してくるうちに、滝水は霧状に拡散してしまっている。このため、この滝には滝壺がなく、滝の真下で、滝水に打たれての滝行が可能であるという。それゆえ、前もって、米子不動尊里宮でお祓いを受け、滝行の許可を受けた信者のみが滝行ができるという。とはいえ、89m 上から落下してくる滝水が滝行の信者に打ち付ける強さはどの程度強力なのだろうか？ ひよっとしたら、那智の滝に次ぐ、強力な水圧を受けての滝行なのかも？ というわけで、不動尊で許可を受けた信者のみが、滝の真下まで近づけるが一般の登山者は、10m ほど手前に柵があり、それから先は神域で、それ以上近づけないようになっていた。

岩壁の裾を左に 200m ほどトラバースすると、落差 83m の権現滝が現れる。四阿山を源とするこの滝は、落差では不動滝に及ばないが、水量が多く、轟々と音を立てて垂直に流れ落ちる様は迫力満点である。滝壺に流れ落ちた水が深く谷を刻んで、滝近くまで、人が近づくことを許さないようで、滝からおおよそ 100m の距離にある展望台の樹間から眺めることしか叶わない。

権現滝下流と、四阿山・浦倉山(2091m)鞍部から流れ出た 2 つの沢を渡って、米子川の対岸の米子鉦山跡の高台広場まで登り、陽だまりの 360 度大展望の草原に陣取って、少し遅めの昼食を心行くまで楽しんだ。目前には、段差 200m 級の大岩壁の屏風を垂直に流れ落ちる不動滝(右)と権現滝(左)の 2 条の滝。周囲を取り囲む山並みの総てが、タケカンバやシラカンバの白い幹と黄色に色づいた葉のコントラストが目立つ山肌を中心に、モシ、カエデ、ナカマドの赤、緑の葉を残すカラマツ等の針葉樹に、むき出しの岩肌のモザイク模様の多彩な紅葉のいろいろ。久しぶりに目にした標高 2000～1500m 級の山の紅葉にしばし酔いしれた。このダイナミックな大瀑布の景色をカメラに収めようとしたが、岩壁を流れ落ちる双流の滝は、北に面しており、我々が訪れた 1:30PM 頃は、滝の真上に太陽が位置する完全な逆光状態で、どう工夫しても、我々素人の腕では、満足のいく米子大瀑布を俯瞰する写真を撮るのは難しかった。

なお、この山中に不似合いな広大な広場は、1973 年に閉山した米子鉦山の選鉱所と住宅跡だという。徳川時代後期から昭和 48 年に閉山するまで、この奥の火口カルデラ内で、硫黄の他、建築材の蠟石、宝石として価値があるダイアスポア(透明の酸化アルミ単結晶)を採掘する鉦山があり、最盛期にはこの広場付近に 1500 人規模の住宅の他、学校や郵便局もあったとう。採掘現場からこの広場まで、索道で鉦石を運び、ここで選鉱してから、直線距離で 14km の須坂駅まで再び索道で鉦石を運搬していたという。また、駐車場手前から、この広場に通じる道路もかろうじて車が通行できる状態で残っているようだ(地元関係者以外通行禁止)。なお、この場所から、根子岳や四阿山に登る健脚者向け登山道があるようで、脚に自信のある登山者がハリエーションルートとして挑戦してみるのも良いかも。

少し先の学校跡地先の高みにある、今回の周遊ルートで最高標高 1480m 地点となる展望東屋まで登ると、ようやく百名山四阿山と根子岳を繋ぐ長い稜線が望遠できた。ここから樹林帯の中の急坂を標高差 200m ほど (3/3)

下ると、往路の登山道に出会い、数分で車とドライバの待つ駐車場に帰着した。約3時間の全山紅葉に染まる米子大瀑布ハイキングを無事終了した。5か月前に下見に訪れた2名を除く7名は勿論初見参の秘境百名瀑訪問だった。

カモカに別れの挨拶を受け、林道を約30分走って一般道に戻り、須崎市から高山村中心部を経て、今夜の宿泊地：信州高山村温泉郷八湯の中心地山田温泉「風景館」に、約50分を要して到着した。10畳和室3室に分かれて一休み後、眼下に広がる松川渓谷の紅葉を愛でながら、透明のNa・Ca塩化物温泉の源泉かけ流しの湯船にゆった〜りと身体を沈め、温泉気分を存分に堪能した。

舌の肥えたシアマンパに満足してもらえるよう、今夜の夕食は、奮発してこの旅館最高級の贅沢会席コースをお願いしてあった。個室での6:00PM開宴の夕食は、約20種に及ぶ先付に始まり、信州プレミアム牛と信州サーモンをメインディッシュにした「見てよし食べてよし」の会席コース料理が次々に運ばれてきた。地元高山村産ワインを嗜みながらの約2時間に及ぶ会食は、マンパ全員揃ってほぼ完食し、満腹・満足のうちにお開きとした。9:00pm頃には、全員眠りについたようだ。

今回の宿泊先には、松川渓谷沿いの八つの温泉のいずれかを選ぶと定め、NETで情報を集め、開湯250年超の温泉郷最大・最古の山田温泉(標高900m)か七種類の泉質の温泉が楽しめるという七味温泉(標高1300m)に候補を絞った。温泉重視なら後者だが、食事内容・旅館のサービス内容を重視し、最終的にリーズナブルな料金で我々のニーズに合った宿泊ができそうな山田温泉「風景館」を選んだ。しかし、平日であっても、最も料金の高い紅葉最盛期の宿泊となるため、ハイグレードの食事2食付き1泊の宿泊料金が、2.5万円/人とかかなり高額に跳ね上がる。そこで、早期割引・会員割等の各種料金割引プランをフルに活用して、参加マンパ募集前の6月初めに、一人当たり約1.9万円のプライスダウン価格で、10名分の宿泊予約を完了できた。なお、この価格は、これまでTTCで実施してきた宿泊山行の中で、最高額クラスだと思う。

◆10/24(火): 男性マンパは、朝食前に天空露天風呂から松川渓谷の紅葉の景観を楽しんだ。豪華な朝食をすませたのち、松川渓谷左岸の散策路「夢の道遊歩道」(約1.3km/所要時間30分強)の散策を楽しんだ。この散策路は、もともと茶室への道であったという。スタートの露地門を潜り、木立の中の小径を10分ほど辿ると中門があり、さらに5分先に、かつて茶室だった「松楓庵」が残っていた。山田温泉を度々訪れたという森鷗外や与謝野晶子夫妻が詠んだ歌碑が残されており、かの文人たちもこの小径を散策したのだろうと想像される。現在は、かなり荒れ果て、熊よけの鈴を鳴らしながら用心深く歩かなければならない、少々寂れた遊歩道になってしまったようだ。

この後、車の車窓から松川渓谷の紅葉を愛でながらのドライブを楽しみながら、標高1300mの七味温泉まで登った。途中、八滝展望台に立ち寄り、対岸の山腹の窪みを8段で、落差180mを流れ下る八滝を見学した。滝の水量が少ない上、逆光で、必死に目を凝らして、ようやく滝の存在が確認できる程度の迫力に欠ける滝だったが、山肌を黄色と紅色に染め上げた全山紅葉の景観は見応えがあった。

標高1100m付近には、松川渓谷を代表する観光スポット「雷滝」がある。道路から石段を数分下ると、松川渓谷本流の大量の水が、落差30mの断崖を一気に流れ落ちる迫力満点の雷滝に降り立つ。滝水の吐出口の岩壁が数mオーバハングしていることから、吐出口下に空間があり、この場所から、流れ落ちる滝水の飛沫を全身に浴びながら、滝裏を散策できることから、裏見の滝とも別称されている。日光や奥利根にも裏見の滝があるが、雷滝は前述の滝に比べ、水量、落差ともに勝り、迫力満点の豪壮な滝であった。

最後に、松川渓谷を代表する景観として有名な、山田温泉入口下の赤いアーチ橋「高井橋」をアクセントに添えた高井橋下流からの紅葉に染まる松川渓谷の景観を、少し下流の地点から眺め、その景観をカメラに収めた。また、長野市内方面に目を移すと、広がる青空の下、左から右に立ち並ぶ戸隠山、飯綱山、黒姫山、山頂部を雲に隠した妙高山、斑尾山の北信五岳のそりい踏み、また飯綱山と黒姫山の間にはひとときわ高く聳え立つ高妻山と乙妻山の山塊、戸隠山の上空とその左には、白銀に化粧した北アルプス後立山の山並みが、終始まとわりつく雲間に見え隠れしており、その景観はこの2日間とも大差ない景色として望まれた。このところの数日間、寒気が一気に日本上空に流れ込み、標高の高い北アルプスには、相当の降雪をもたらし、あのまとわりつく雲の様子では、今日も北アの稜線では、強風と吹雪の荒天が続いているようだ。このところ北ア山域では、低体温で行動不能になったり、滑落したりの遭難事故多発のニュースを毎日のように目にする。また、昨日、米子大瀑布から山田温泉に向かう途中の道路に、少し前に降ったと思われる雪が、路肩に寄せられて雪の塊になっているのを目撃した。また、10/25日には、東京都心から千葉県にかけて季節外れの降雪があり、文京区で2cm、千葉市では5cmの積雪があったというニュースを目にした。この数年激しくなるばかりの異常気象。とくに季節の変わり目の高山では、これまでの経験や常識が通じない予想外の天候異変に遭遇する確率が急激に高くなってきていると感じている。万が一にも山で命を落とすことがないよう、安全登山最優先の行動指針のもと、綿密な計画と慎重な行動が、増々重要になってきているのだと、この景色を眺めながら痛感した。

数ある信州そば店の中で、高山村に個性的な玄そばが大人気の子安そば「文の蔵」があるとの情報を得て、昼食は是非この店のそばと決め、11:30AM開店の5分前に車を乗りつけ、順番待ちリストに10名をエントリーをした。40分ほど順番待ちしてようやく入店できた。高山村産のそばを殻ごと粗挽きした色黒の太めの二八そばは香り立ち歯ごたえがあった。地元の人も開店前からの順番待ちの長い行列で、中々味わえないという貴重なそばを食べることができて満足した。

この後、JAながの高山共撰所に立ち寄り、今朝収穫された新鮮な高山村産「シナスイート」、小布施ハイウェイオアシスでは、シナゴルトや紅玉、シャインマスカット、小布施栗、リンゴジャム、小布施の栗菓子等をしっかり買い込み、2:08pmに小布施スマートICから高速道に入り、途中2か所のSAで休憩を取り、6:50pmに無事本厚木駅付近に帰着した。